

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2013	インターン番号	KB013	タイプ	公募型
派遣国	インドネシア共和国			派遣都市	ジャカルタ、ブカシ、カラワン、スラバヤ
受入機関	PT. JAC Indonesia				
受入機関概要 (事業内容等)	2002年設立 社員数175名 国内4拠点 インドネシア最大手の人材紹介・人事コンサルティング会社				
派遣期間	2013年9月18日～2014年2月28日				
現在の所属先	大阪大学	当時の所属先	同左		
現在の所属部署	外国語学部	所在地	大阪府		
区分	学生	性別	男性		

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

私は、元々海外志向が強く大学では外国語学部にも所属しインドネシア語を専攻していました。大学に入学してからも漠然とでしたが、将来は国際的に活躍したいと思っていました。そのような時に国際即戦力インターンシップ事業を知りました。自身の思いが本気なのか、そして海外で日本人マイノリティの中で働くとは一体どういうことなのか、ということを知りたくインターンシップに参加しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

私はインドネシア国内にある4拠点(ジャカルタ、ブカシ、カラワン、スラバヤ)を移動しながらインターンシップを行っていました。そのいずれも期間も主に人材紹介事業の業務に携わっていました。採用候補者と企業の間で面接機会のセッティングや面接中での通訳を行っていました。またスラバヤに新オフィスが開設されてからは唯一の日本人としてオフィスに常駐し、日系企業を中心に新規市場開拓の営業を行っていました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

私はインターンシップへの参加に際して、インドネシアに進出している日系企業が現地で抱える問題・課題等の理解を深めることを目標としていました。インターンシップ派遣先機関は人材紹介・人事コンサルティングを行っている企業で、幅広い業界との繋がりがあり、私の目標達成のためには非常に良い環境でした。実際に受入機関のサポートを受けながら様々な機会をいただきました。業務を通じてでは日本人、インドネシア人問わず多くの方の声をヒアリングすることができ、インターンシップに際しての目標は概ね達成できたと考えています。

このプロセスの中では大勢のインドネシア人スタッフの方に助けていただき、日本人マイノリティの環境下での行動力や、バックグラウンドの異なる人々を巻き込む主体性を向上させることができました。

またインターンシップ期間中の約3ヶ月間、受入機関のインドネシア人の方の自宅にホームステイをする機会もいただきました。インドネシア現地の生活にどっぷりと浸かることができ、文化への理解、語学力の向上につながり大変良かったです。

インターンシップ風景



ジャカルタオフィスの社員の方々と



会社の年末パーティにて

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

私は大学3年次にインターンシップに参加しました。インターンシップ終了後には将来的にインドネシアに携わることのできる企業を中心に就職活動を行いました。そして最終的にはエネルギー開発企業より内定を得ました。この進路選択はインドネシアでのインターンシップ経験の影響が大きかったです。

インターンシップ参加前に抱いていた海外志向や日本人マイノリティの環境下での挑戦欲はインターンシップ参加後にはますます強いものになりました。なかなか思い通りにならないこともありましたが、それをバックグラウンドの異なる人々と協力して乗り越えていく、海外で働くことは日本以上に刺激的で喜怒哀楽に満ち溢れていることだと実感しました。こういった経験が私を海外・インドネシアでの活躍舞台を求めよう突き動かしたのです。

またインターンシップ中にはホームステイ経験をしたり、インドネシア人の方と多く接点を持つ等、現地への理解を深めようとしていました。その際に、当地における停電事情や低所得者層向けの燃料補助金削減といった問題を知り、関心を持つようになりました。インフラのインフラである石油・天然ガスを開発するエネルギー開発企業であればそういった問題にアプローチすることができると思ったのです。同時にインドネシアでのエネルギー開発に携わり、それが資源小国である日本へのエネルギー供給にも繋がれば、日本・インドネシア双方に資することができると思い現在の進路を決定しました。

就職活動ではインターンシップ経験のことを関心を持って聞いていただきました。スラバヤでの新規市場開拓のための取り組みは積極性や自主性を評価していただきましたが、特にインドネシア人スタッフ方に協力を得ながらやり遂げたこと、そのことを最も評価していただきました。

内定先であるエネルギー開発企業での仕事は日本だけが勤務地という訳でもありませんし、私1人、日本人スタッフだけで行うことができません。時には異国の地で、外国人スタッフの方を巻き込み、協力し合いながら行うものです。インドネシアでのインターンシップで培ったことにさらに磨きをかけて社会に出ていきたいと思っています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

機会、経験、人脈、国際即戦力インターンシップ事業では本当に多くのものを得ることができます。経済産業省、JETRO、HIDAといった機関が間に入らなければ新興国でのインターンシップの機会等なかなか得ることができないと思いますし、インターンシップの経験自体は自身の大きな成長に繋がると思います。またインターンシップを通じて得た日本人・外国人の方との接点は今後も自身を刺激して良いモチベーションになると考えます。私にとって非常に大きな転換点となったインターンシップ事業です。